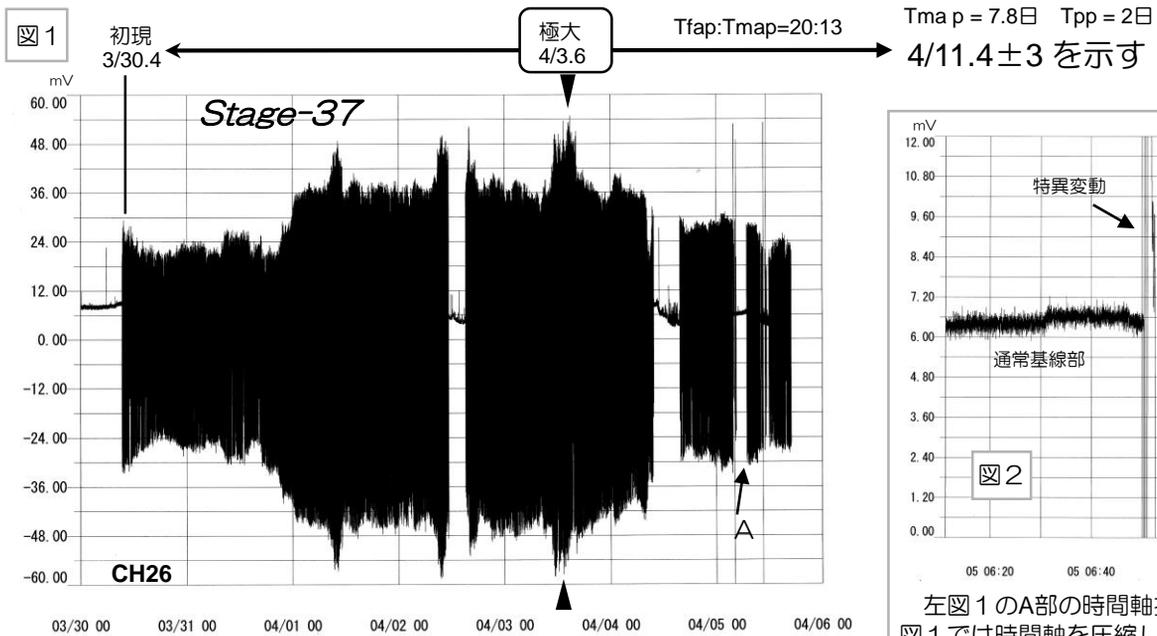


※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は30年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。2024年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

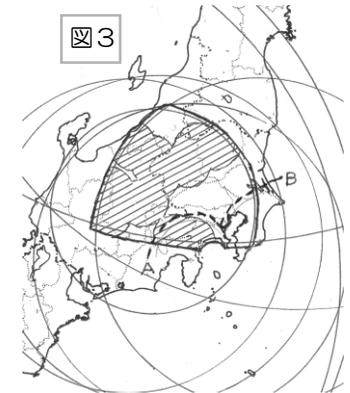
※2024.8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778長期変動 Stage-37特異変動認識 誤認 ひとつの変動 4/11±3 を示す



◆前情報では、3/30.4からのCH26の特異変動を2つの変動に分けた認識をしました。しかし、前情報配信後から図1のとおり断続的に特異変動が出現し、4/5を示す静穏期が認められず、認識が誤りであることが明らかです。図1のとおり、初現3/30.4 極大4/3.6(3.5から3.6に修正)という、ひとつの変動形態である可能性が高いと再認識致しました。その結果、本日明日の発生は考えられず、4/11±3を示すこととなります。この様な顕著な特異変動で、途中通常基線に変化する過去例は殆ど無いため、全体がひとつの変動である認識に至りませんでした。より早くから認識できた筈で、本当に申し訳なく、また情けなく思います。申し訳ございませんでした。

◆全体をひとつの変動と認識した場合、4/9の静穏期突入まで断続的でも特異変動またはPBF特異が継続する可能性が示唆されます。4/11を示しますが、この時期に極大が再び出現する場合は、より以前に極大のための変動が現れたことが予想されますので、出現した場合はご報告させていただきます。4/11±3に次ステージの極大が出現しない限り、現状はこの時期が対応地震発生の可能性が高いと推定されます。



- 推定領域：図3の太線領域内＝大枠推定領域  
図3斜線領域＝可能性が考えやすい推定領域  
震央が火山近傍領域を含む可能性高い
- 推定規模：主震 M8.0±0.3 または  
複合の場合＝M7.3±0.3 + M7.1±0.3 他等  
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で 余震を含まない大型地震の断層長 Lkmが合計で  
約110～150km程度となる様な複合地震活動の可能性（群発的な活動の可能性も有）  
※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
- 推定時期：4/11±3  
(※上記時期に極大が出現した場合は、上記推定は無効。続報)

- 推定地震：震源浅い陸域地殻地震
- 推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3 (午前09時±2の可能性若干高い)
- ※30年の観測で初めて体験する長期継続変動のため推定が間違っている可能性も否定困難

※仮に推定に近い活動が生じた場合でも被害が少ないことを祈ります。